



看護部通信

2014年4月

3月末は退職や転勤する方々を見送り、4月は新しく入職された職員の発令式がありました。まさに春は別れと出会いの季節です。職員の中にも、新たな生活に向かってご家族と離れる子供さんを見送った方がいらしたのではないのでしょうか。さて看護部も新しい目標を掲げてスタートしました。その第一目標は「病院機能評価受審」です。受審までのプロセスは、今までの自分たちの業務を見直し、患者・家族により一層の安全と安心の医療・看護を提供するための組織力をアップさせる機会になると思います。第一目標達成のため、職員が一丸となって課題をクリアして行きましょう。

看護管理室

あきらめない

外来 K

ソチオリンピック閉幕後、開催されたもう一つのオリンピック「ソチパラリンピック」には日本から20名の選手が出場しました。秋田からは、高校生選手が女子ノルディックスキーに出場し話題になりました。

障害原因は様々ですが、選手の中にスキー事故で両足マヒの障害を負ったにもかかわらず、スキーを諦めることなく大回転に出場した選手が「逃げ出したいときもあったけど、それを超えると楽しさというものがあります。純粋にスキーが好きですから」「早くかえって練習したいです」と言っていました。その言葉を、笑顔で話せる強さと挑戦する姿にとっても感動しました。またスーパー大回転では、雪質による転倒リスクからジャンプを避ける選手もいましたが、果敢に挑んだ日本の選手が金と銀を獲得しました。表彰台独占とはなりませんでした。メダル獲得はすごいことです。何よりも、自らの可能性と夢を諦めないアスリートの皆さんに大拍手と尊敬の気持ちがいっぱいの「パラリンピック」でした。

仕事や生活の中で、逃げ出したくなる時やあきらめたくなることもあります。そんな時は「パラリンピック」で活躍した選手達を思い浮かべ少しパワーを貰うのもいいですね。



病院機能評価受審を前に

S

1年前の事になります。娘が就職した病院を見に行ったとき、案内をしてくださった総師長さんが最後に「お母さん、うちの病院はどうでした？医療の現場で働く人は、病院を一目見ただけでその病院の医療や看護を感じとる事ができると思うので・・・」と言われました。そのときは急な問いかけにうまく返答できませんでした。後でゆっくりその言葉の意味を考えてみると、確かに院内で働く職員の態度や雰囲気、患者さんの表情などからも、その病院の医療・看護に対する姿勢が伝わってくる気がします。

当センターでは現在、病院機能評価受審を前に、準備に追われる毎日です。受審の目的は自分たちの病院を見直し、患者さんへより良い医療・ケアを提供することにあります。そのことを忘れずに自信を持って病院を紹介できるように取り組んでいきたいと考えています。

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

